

## 9 社会貢献

### 【目標】

大学は、その知的資源をもって積極的に社会に貢献することが期待される。社会との交流を促進し、積極的に大学の情報を発信し、教育研究上の成果を社会に還元することが望まれていることは周知のとおりである。このことを実現するために本学では、2004年4月に学術研究推進センターを発足させ、本学で営まれている多様な学術研究と地域社会との積極的な交流や産官学連携を推進し、積極的な展開を目指している。

各学部・学科においても各種公開講座をはじめ公演会の実施など様々な取り組みをさらに充実させる。

### (1) 社会への貢献

大学は、その知的資源をもって積極的に社会に貢献することが期待される。社会との交流を促進し、積極的に大学の情報を発信し、教育研究上の成果を社会に還元することが望まれていることは周知のとおりである。

このことを実現するために本学では、各種公開講座をはじめ公演会など様々な取り組みを行っている。大学全体として、または各学部・学科が行っている公開講座の開催状況は、[大学基礎データ表10]に示すとおりである。

1986年田辺キャンパス(現、京田辺キャンパス)の開学に伴い、社会に開かれた大学として、イベントの実施や施設の開放等を行っている。2005年度においては、地域連携をさらに進めるために京田辺市と本学、同志社大学、同志社国際中学・高等学校との間で包括協定を締結し、さらに多方面において情報の受発信を行い、京田辺市民をはじめ近隣地域との交流促進にむけて取り組みを始めるところである。

また、本学の対社会教育、ことに高校生を対象とする社会教育として、2002年より「SEITO百人一首」の募集を行っている。「SEITO」とは「生徒」のことであり、広く国内外の高校生徒全般から「短歌」を募集する試みである。キリスト教主義、国際主義を建学の理念とする本学が、聖徒のイメージをも含み、かつ外国人をも配慮して名称を「SEITO百人一首」とし、また建学の理念である国際主義に即して本学独自の企画として英語短歌の募集も行っている。

社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度(B群)

産官学連携事業等の推進並びに本学教員の研究活動補助の目的のため、本学において学術研修を希望する者を、2004年度より学術研修員として受け入れている。

学術研修員受け入れ件数は、2004年度は1件であったが、2005年度は10件と飛躍的に増大した。申請件数から考えると、学外者に対する研修システムとして着実に認知され、機能していると考えられる。社会との文化交流等を目的とした教育システムとしては微妙にずれのかもしれないが、社会に開かれた研修システムであるためここに記した。

また、キリスト教主義教育の一環として、毎年9月の1週間、美しい自然に囲まれた群馬県榛名町にある高齢者福祉施設の社会福祉法人新生会においてワークキャンプのボランティアを継続的に行なっている。正課の授業（単位制度）とは結びつかない、学生の自由意志に基づいた任意参加のプログラムとして20名を定員に募集するが、毎年定員を超える応募がある。約550人の高齢者が暮らす諸施設において、食事や散策介助、居室の訪問や清掃などの多様な活動を通して、福祉とは何かのみならず「命の尊さ」や「人の優しさ」を学ぶ体験をする。その活動記録は「ワークキャンプ報告集」に掲載され、毎年3月に発行している

#### 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況（B群）

各種公開講座については、[大学基礎データ表10]のとおりであるが、教育課程の取り組みを広く社会に向けて発信する公開講座の開設としては、英語英文学科におけるShakespeare Production、音楽学科における定期演奏会、国内演奏旅行、オペラがあげられる。教室内での知識・教養を身につけるだけでなく、講演を通して学生の自主性、責任感、連帯感が養われ、高い教育効果を上げることができ、なおかつ社会との交流促進の観点からも評価できるものである。

また、学術研究推進センターが所管している公開講座等としては、6 研究活動と研究環境の章で述べたとおり、総合文化研究所公開講演会が挙げられる。この公開講演会は、原則として毎年開催され、2003から2005年度の実施状況は、以下のとおりである。

年度	テーマ	参加人数
2003	リスニング能力を伸ばすための秘訣	69名
2004	キリスト教文学の新視角	20名
2005	教育とジェンダー	100名

このように様々な分野の研究成果の公表を行っており、多くの市民が参加した。

学術研究推進センターが関与したものとしては前述の公開講演会のほかに、様々な産官学連携関連の催しを通して、本学の研究成果の一部を公表している。その催しは、以下のとおりである。

2004年度 2件

産学公交流フォーラム 第2回京信産学公交流フォーラム

2005 年度 2 件

異業種京都まつり きょうと産学連携ビジネスミーティング 2006

上記の催しに対する本学の参加の状況は、以下のとおりである。

#### 産学公交流フォーラム

本学より情報メディア学科川田助教授および学術研究推進センター職員 1 名が参加し、本学の研究成果、産官学への取り組みを参加者に説明した。

展示ブースにおいて、本学教員が関与している研究成果が掲載された新聞記事の切り抜き、「大学案内」、「同志社ローム館パンフレット」などの資料を配布した。

また、ブースにおいては、学部・学科紹介ポスターおよび産官学連携への本学の取り組み方を示したポスターを掲示した。

このフォーラムへの参加は、地元中小企業 317 社と本学を含む 25 大学であった。

#### 第 2 回京信産学公交流フォーラム

本学より学術研究推進センター所長諸井教授、食物栄養科学科西村教授、情報メディア学科川田助教授および学術研究推進センター職員 2 名（その他アルバイト 2 名）が参加し、本学の研究成果、産官学への取り組みを参加者に説明した。

展示ブースにおいて、情報メディア学科教員による研究成果、食物栄養科学科教員による研究成果、「The Dreams of DoRIS（教員研究活動紹介集）」、「大学案内」、「薬学部紹介パンフレット」、「DoRIS パンフレット」などの資料を配布した。

また、ブースにおいて、情報メディア学科教員による研究成果の紹介ポスター、食物栄養科学科教員による研究成果の紹介ポスターおよび産官学連携紹介ポスターを掲示した。

#### 異業種京都まつり

本学より医療薬学科木津教授、情報メディア学科川田助教授、食物栄養科学科小切間助教授および学術研究推進センター職員 1 名が参加し、本学の研究成果、産官学への取り組みを参加者に説明した。

展示ブースにおいて、「The Dreams of DoRIS（教員研究活動紹介集）」、「大学案内」、「薬学部紹介パンフレット」、「DoRIS パンフレット」などの資料を配布した。

また、ブースにおいて、食物栄養科学科教員による研究成果の紹介ポスター、薬学部紹介ポスターおよび産官学連携紹介ポスターを掲示した。

#### きょうと産学連携ビジネスミーティング 2006

本学より情報メディア学科川田助教授および学術研究推進センター職員 1 名が参加し、参加者に対して本学の研究成果、産官学への取り組みを参加者に説明した。また、川田助教授による「産官学連携を成功させるための 5 つの秘密」について講演が行われた。

展示ブースにおいて、「The Dreams of DoRIS（教員研究活動紹介集）」、「DoRIS パンフレット」などの資料を配布した。

また、ブースにおいて情報メディア学科教員による研究成果の紹介ポスター、産官

学連携紹介ポスターを掲示した。なお、この催しへの来場者は、5,400人であった。

その他、「滋賀ビジネスパートナー2005」にも参加し、「The Dreams of DoRIS(教員研究活動紹介集)」、「DoRISパンフレット」などの資料展示のみを行った。

このように、産官学連携関連の催しを通じても本学の研究成果を学外に公表し続けている。今後についても総合文化研究所公開講演会の開催や産官学連携関連の催しへの積極的な参加により、市民が参加できる公開講座等を開催し、研究成果の公表を行う。

教育研究上の成果の市民への還元状況(B群)

研究成果の社会への還元状況(B群)大学院

本学では各学部・学科において様々な研究成果発表会やシンポジウムを開催し、教育研究上の成果を市民に還元している。

2003年度から2005年度における開催状況は、以下のとおりである。

2003年度：英語英文学科	1件
日本語日本文学科	1件
社会システム学科	3件
2004年度：日本語日本文学科	2件
情報メディア学科	5件
国際社会システム研究科・現代こども学科	3件
生活科学部	3件
2005年度：日本語日本文学科	2件
文学研究科日本語日本文化専攻	1件
薬学部	1件

地方自治体等の政策形成への寄与の状況(C群)

1978年の関西学術研究都市調査懇談会の提言以来、「文化、学術及び研究の中心となるべき都市を建設し、もって我が国及び世界の文化等の発展並びに国民経済の発達に資すること」を目的に、産官学と市民が緊密な連携を図りながら、関西文化学術研究都市の建設が進められてきた。本学学長は、今後10年の方向性を示す関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン策定委員会の幹事である。文化学術研究を推進する立場から、当該プランの着実な実効性を確保するため、社会情勢の変化に伴う課題や要請に対応して、絶えず評価と見直しを行なうことになる。

本学は、2つのキャンパスを有し、今出川キャンパスが京都市上京区に、京田辺キャンパスが京田辺市に立地している。特に、京田辺市とは、2005年1月に、同一法人の同志社

大学及び同志社国際中学校・高等学校とともに連携協力に関する協定を締結し、教育、文化、福祉の向上、スポーツの振興・発展、地域産業振興、人材育成、まちづくり等について、人的及び知的資源の交流を図っている。さらに、学長と京田辺市長との懇談会や事務レベルの打合せを開催し、教育行政の中で協力できる事項について話し合いを重ね、実行できるものからそれぞれの所定の手続を経て実行に移している。

その他、本学の教員（特別任用助手含む）が国、地方自治体等の政策形成に関して、内容の詳細についてはまでは把握していないが、「教員研究活動等報告書」により確認できるものは、以下のとおりであり、様々な分野において協力していることは評価できる。

学部・学科	氏名	機関	役職	年度	備考
学芸学部 日本語日本文学科	廣瀬千紗子	独立行政法人日本芸術文化振興会国立劇場調査事業委員会	委員	2003年～	
		独立行政法人日本芸術文化振興会国立劇場養成事業委員会	委員	2006年～	
		独立行政法人日本芸術文化振興会文楽劇場文楽公演専門委員会	委員	2006年～	
	本間洋一	精華町民生児童委員協議会	委員	1999年～ 2001年	
		精華町人権啓発推進委員会	委員	1999年～ 2001年	
	池上洵一	国文学研究資料館 原本データベース委員会	委員	1998年～ 2002年	国文学研究資料館は文部科学省直轄の研究機関
	丸山敬介	自治体職員協力交流事業日本語研修プログラム	コーディネーター	1996年～ 2002年	地方公共団体の共同組織
		滋賀県受入海外技術研修員等日本語研修プログラム	コーディネーター	2000年～	
		第三次京田辺市総合計画審議会	委員	2004年	
	森山由紀子	財団法人京都中央看護師養成事業団	評議員	2001年～	京都市と社団法人京都私立病院協会が出捐し、設立

学部・学科	氏名	機関	役職	年度	備考
学芸学部 音楽学科	稲田雅美	岐阜県吹奏楽コンクール	審査員	2001年	
	黒岩義臣	岐阜県吹奏楽ソロコンテスト	審査員	2004年	
	仲万美子	PTNAピアノ・コンペティション（特級1次）	審査員	2005年	社団法人全日本ピアノ指導者協会（PTNA）は文部科学省所管の公益法人であるピアノ指導者団体
	中野慶理	PTNAピアノ・コンペティション（G級1次）	審査員	2006年	
		ミュージック・クリエーション夏期アトリエ（INA・GRM フランス国立視聴覚研究所・音楽研究グループにおけるコンピュータ・ミュージック制作アトリエ）	実行委員	1997年～2003年	
	成田和子	MOTUS夏期アトリエ2005パリ・クレスト	実行委員	2005年	
		Japan & China piano competition	審査員	2001年	
S.V.PROTICH	大阪市 世界にはばたく人材都市大阪のためのメディア戦略			2005年	

学部・学科	氏名	機関	役職	年度	備考
学芸学部 情報メディア学科	影山貴彦	大阪市 「世界陸上大阪2007」特設サイト企画コンペ	審査員	2006年	
	川田隆雄	文部省・メディア教育開発センター	共同研究員	2000年～2001年	
		京都府生涯学習高度情報推進プロジェクト	委員長	2003年～	
		滋賀県中小企業IT推進ネットワーク戦略研究会	委員	2001年	
	森公一	滋賀県広報誌企画編集コンペ 審査会	委員	2002年	
		Global Enterprise Challenge 国内予選	審査員	2006年	
	余田義彦	つくば市学校LAN敷設ボランティア組織ネットピング隊	リーダー	1999年～2002年	
		先進的教育用ネットワークモデル地域事業(文部省、郵政省)つくば・土浦地域推進会議	アドバイザー	1999年～2002年	
		第2回国際情報教育調査SITES, OECD「ICTの学習の質」共同「先進的ICT教育利用実践ケーススタディ」	委員	2000年～2001年	
		学校インターネット(文部科学省、総務省)企画評価委員会授業利用部会	委員	2001年～2005年	
		吹田市教育委員会	スーパーバイザ	2002年、2005年	
		千葉県総合教育センター	研究事業講師	2001年～2002年	
		京都府教育委員会 教育情報ポータルサイト仕様検討会議	委員	2005年	
		京都府 地域と人をむすび育てるIT活用プラン教育人づくり部会	委員	2005年～2006年	
つくば市教育委員会 プレゼンテーションコンテスト		審査委員	2005年		

学部・学科	氏名	機関	役職	年度	備考	
現代社会学部 社会システム学科	天野太郎	国土交通省京都国道事務所「京の道資料館運営委員会」	顧問	2002～2003年		
		国土交通省京都国道事務所平成17年度京の道資料館企画検討委員		2005～2006年		
	後藤明	東アジア諸国学術交流事業・拠点大学方式学術交流・協力研究者（拠点大学本部 鹿児島大学・水産学部およびフィリピン大学ヴィサヤス校）			1998年～	
		アクアマリン・ふくしま（福島県立水族館）の企画展 南太平洋のウミサチヒコの企画監修			2001年	
		沖縄海洋博記念公園海洋文化館・活性化委員会	委員			国営公園
	加藤敦	平成12年度経済産業省リアルオプション研究会	委員	2001年		
	臈谷寿	源氏物語アカデミー	監修者	1991年～	越前市市民生活部 市民活動推進課	
	岡島貞一郎	ユネスコ	特別顧問	2004年～		
	冷泉為人	京都御所障壁画の現況調査並修理指導等	委員	1994年～		
		国際高等研究所「文化財保全技術」	研究メンバー	2006年から3カ年		
		明石市文化財保護審議委員		1983年～		
		京都国立博物館評議会	評議員	2005年～		
		独立行政法人国立博物館運営委員会	委員	2005年～		
	谷直之	千葉県警察学校	非常勤講師	2001年～2004年		
	山上徹	新京都市観光振興推進計画策定委員会	座長	2005年		
		京都市 京都創生百人委員会	委員	2006年～		

学部・学科	氏名	機関	役職	年度	備考
現代社会学部 現代こども 学科	藤原孝章	富山市市民提案型まちづくり事業	企画・審査委員	2001年～ 2003年	
		富山県社会福祉協議会活動推進計画策定委員会（ボランティア活動推進部会）	委員	2001年～ 2002年	
		和歌山国際理解教育推進委員会	委員長	2004年～	
	橋戸敏弘	独立行政法人労働者健康福祉機構奈良産業保健推進センター	産業保健相談員	2001年～	
		奈良県立西の京高等学校	学校評議員	2002年～ 2005年	
		奈良警察署協議会	委員	2003年～	
	広瀬俊雄	広島県教育委員会・教育職員免許法認定講習「教育の方法及び技術」（小・中学校教員対象）	講師	1998年～ 2003年	
		文部省「小学校道徳教育推進指導資料作成協力者会議」	委員	2000年～ 2001年	
	笠間浩幸	子どもの文化研究所	所員	1997年～	文部科学省の財団
		IPA（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）日本支部	会員	1998年～	
		くしろ男女共同参画プラン推進懇話会	委員	1999年～ 2003年	
		釧路市「子ども遊学館をつくり・育てる会」	委員	2000年～ 2003年	
		釧路地域保健医療福祉協議会母子保健福祉推進専門部会	委員	2002年～ 2003年	
		釧路市「子ども遊学館」市民ステージの会	副代表	2003年～ 2004年	
		IPA（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）日本支部	副代表	2006年～	
河野健男	山口県史編さん委員会	専門委員（現代部会）	1990年～		
日下菜穂子	柏原市地域福祉計画策定委員会	地域福祉計画策定委員	2002年		
	神戸市「通常学級におけるLD等への特別支援事業」	巡回相談員	2003年～		

松崎正治	鳥取県教育センター平成17年度教科の指導力向上研修（高等学校国語）	講師	2005年	
	鳥取県教育センター平成17年度教科の指導力向上研修（小学校国語）	講師	2005年	
	鳥取市立逢坂小学校校内研修	講師	2005年	
	大阪府枚方市立交北小学校校内研修	講師	2005年、2006年	
	大阪府島本町立第3小学校校内研修	講師	2006年	
	鳥取県教育センター 教科リーダー研修（中学校・高等学校国語科）	講師	2006年	
三宅えり子	国際女性の地位協会	会員	1987年～	N G O
中山まき子	国立民族学博物館	共同研究員	2000年～2001年	
	徳島県鳴門市女性行動計画策定懇談会	会長	2000年～2001年	
	徳島県教育委員会主催：県立高等学校教頭研修会	講師	2001年	
	佐賀県主催：女性の性と生を考えるセミナー	講師	2001年	
	徳島市保健福祉部主催：保育所所長研修会	講師	2001年	
	第3次徳島市総合計画後期基本計画策定に向けての市民会議	委員	2001年～2002年	
	徳島県人権教育啓発推進拠点検討委員会	委員	2001年～2002年	
	徳島県男女共同参画会議	会長	2002年～現在	
	徳島県教育委員会主催：女性教育指導者研修基調講演	講師	2003年	
	日本学術振興会、人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業「文化としてのリプロダクション研究会」	メンバー	2003年～現在	
	内閣府・徳島県共催：平成15年度男女共同参画フォーラム in とくしま	全体会総合コーディネーター	2004年	

左巻健男	科学技術振興事業団科学理解増進室	サイエンス・レンジャー	1999年～	
	環境省大気学習体系化	委員	2001年～ 2002年	
	兵庫県立教育研修所運営協議会	委員	2002年～ 2003年	
	兵庫県但馬地区人権・同和教育推進協議会	副会長	2003年～ 2004年	
塘利枝子	守山市立教育研究所研究研修事業「国際理解に関する子どもの意識調査研究」	指導講師	2002年～ 2003年	
上田信行	Next Generation Forum (デンマーク LEGO 社)	パネルメンバー	2000年～ 2002年	
	LEGO Learning Institute (デンマーク LEGO 社)	パネルメンバー	2002年～ 2003年	
	国立民族学博物館共同研究会「国立民族学博物館を活用した異文化理解教育のプログラム開発」	共同研究員	2003年～	
	生駒市子ども読書活動推進会議	会長	2004年～	
	伊丹市男女共同参画政策懇話会	委員	2004年～ 2006年	

学部・学科	氏名	機関	役職	年度	備考
薬学部 医療薬学科	杉浦幸雄	自然科学研究機構 分子科学研究所	外部評価委員	2005年	
		特別研究員・国際研究集会審査会	専門委員	2005年	日本学術振興会
		科学研究費審査会	専門委員	2005年	
		Chemistry-An Asian Journal	International Advisory Board	2006年	
		日本学術会議	連携会員	2006年	内閣総理大臣の所轄
	谷本剛	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	専門委員	2004年	
		薬事・食品衛生審議会（厚生労働省）	専門委員	2005年	
	漆谷徹郎	科学研究費委員会	専門委員	2006年	
	和田戈虹	科学研究費委員会	専門委員	2006年	
	栗山正巳	日本学術振興会	特別研究員	2003年～2005年	
	岡村和政	独立行政法人 理化学研究所 脳科学総合研究センター 病因遺伝子研究グループ構造神経病理研究チーム	研究員（非常勤）	2005年	

学部・学科	氏名	機関	役職	年度	備考
生活科学部 人間生活学 科	岩谷幸春	京都府消費生活科学セン ター消費生活通信講座（く らしと物価）	質問回答執 筆委員	1999年～ 2001年	
	宮本義信	京都市子どものための市民 憲章懇話会	委員	2006年～	
		新「京（みやこ）・子ども いきいきプラン」に係る進 捗管理部	会長	2006年～	
	村瀬学	加賀市子育て支援委員会	子育て支援 対策検討委 員	2002年～ 2003年	
		京都府相楽郡精華町	精華台小学 校評議委員	2003年～	
	野崎康明	京都・乙訓地域保健医療協 議会	委員	2000年～	
		長岡京市地域健康福祉推進 委員		2001年～	
	清水久美子	京都府洋裁学校教員（助教 員・正教員）資格認定講習 会および資格認定試験（京 都府洋裁学校連盟主催）	講師	2002年～ 2004年	

学部・学科	氏名	機関	役職	年度	備考
生活科学部 食物栄養科 学科	伊藤節子	厚生労働科学研究班による 「食物アレルギーの診療の 手引き」	検討委員	2005年	

学部・学科	氏名	機関	役職	年度	備考
教職課程セ ンター	石村卓也	京都府総合教育センター	特別講座講 師	2003年	